

工機明三 三次元CADに移行 設計、ミス減らし効率化

ロボットを使った自動車エンジン部品の製造設備などを製作する三明機工(静岡市、久保田和雄社長)は、二〇〇七年中に設計業務を三次元CAD(コンピュータによる設計)に移行する。生産する設備の不具合を防ぐとともに設計効率を高める。同社は〇五年度に設

め、需要が伸びている自動化システム事業の拡大につなげる。三次元CADはパソコン画面に立体画像を映し出してシミュレーションするため設計ミスを減らす。生 産 試 作 も 省 け る な ど 開 発 を 大 幅 に 効 率 化 で き 同 社 は 〇 五 年 度 に 設 計 業 務 へ の 三 次 元 C A D 導 入 に 着 手 。 設 計 作 業 や デ ー タ を 社 内 で や り 取 り す る 際 の 手 順 書 も す で に 整 え 、 〇 七 年 中 に 開 発 部 門 の 約 三 十 人 全 員 が 三 次 元 C A D に よ る 設 計 を こ な せ る よ う に す る 。 同 社 は 液 晶 ガ ラ ス 基 板 の 搬 送 装 置 、 フ ァ ク ト リ

ーオートメーション設備など生産ラインを自動化するシステムを幅広く製作している。年間売上高を〇六年三月期の二十七億円から〇九年三月期には三十五億円に伸ばす計画。設計のデジタル化で生産効率が向上、販売増を促せるとみている。